

# 令和六年 春の課題作文・読書感想文

## 〈塾長講評〉

「愛犬と夢のフライト〜米で開始〜」という記事が五月二十四日の朝日新聞夕刊に掲載されていました。従来とは異なりペットにも搭乗券を発券し座席を使用することも許されるそうです。ペット共生社会にまた一步近づいていることを実感させられます。今春、中学生に取り組んでもらった課題のタイトルが「ペットとの暮らしの未来とは」でしたので強く印象に残った次第です。また、小学生には例年通り読書感想文に取り組んでもらったのですが、今回、この課題作文に挑戦した生徒もいました。その中の一人は課題文で記載した視点に加えて単身世帯の増や少子高齢化の視点も挙げて論を展開し、最後を「一人一人の取り組みが大切」と結んだ作品を提出してくれています。そのチャレンジ精神と完成度を称えて特別賞を差し上げることになりました。一層の成長を期待しています。

さて、ここからは金賞を受賞した作品の紹介を行います。まずは小学生の部で金賞を受賞した二つの作品についてです。一つ目は「魔法女だったかもしれないわたし」を読んだ感想文です。物語の主人公に本人なりの提案を行なった上で、自分自身の今後の行動指針を獲得している点が評価されました。もう一つの作品は「ことばハンター」を読んだ感想文です。我々の普段使う言葉が他人にどう受け取られるのかという点に注目し、国語辞典に実際によく用いられている使い方も掲載されていれば誤解も減るのではないかという趣旨の提案があって素晴らしかったです。

続けて中学生の部です。今回は中学一年生の作品から新人賞を選出していますので三つの作品を紹介します。新人賞金賞の作品では犬の飼育頭数減の理由として昨今の動物愛護精神の広まりから安易な飼育を止める人がいるからではないかという独自の考察があったことに加えて、ペット共生社会の実現は様々な人や生き物が共生できる社会へとつながっていくのではないかと結んでいる点が高く評価されました。中学二年生以上の部では、課題文や資料から素直に学びを得て論を展開している模範的な作品と、既にある女性専用車両や駅周辺の喫煙所に着想を得てそれをペットや飼い主に応用できないかという具体的な提案があったり、動物アレルギーの人の視点も盛り込んだりしながら論じている作品が選出されました。いずれも力作であったと感じています。

最後になりますが、「共生社会」はこれからの時代を象徴する言葉の一つですし、目指していかねばならない姿です。その一方で、講師の作品の中にあつたフレーズの受け売りになりますが『共生』社会が『強制』社会になってはならない」とも思うのです。真剣な議論を通じて相互の理解を促すコミュニケーションこそがその過程で必要だと考えます。そのためにも言葉による表現力が大事になります。この人類特有の武器である言葉を使いこなせるようになって欲しいです。ぜひ公開される金賞受賞作品に目を通してください。そして、そこで学んだことを今後活かしてくれることを強く願っています。